

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																				
大阪情報コンピュータ専門学校	昭和60年9月20日	原辺 隆吉	〒543-0001 大阪市天王寺区上本町6丁目8番4号 (電話) 06-6772-2233																				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																				
学校法人大阪経理経済学園	昭和43年4月19日	理事長 金沢俊孝	〒543-0001 大阪市天王寺区上本町6丁目8番4号 (電話) 06-6772-2233																				
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																			
工業	情報処理専門課程	情報処理学科	平成7年文部省告示第7号	-																			
学科の目的	大阪情報コンピュータ専門学校情報処理学科は、建学の理念に基づく学園の使命に沿って、学生一人ひとりの個性を伸長し、情報通信、及びゲーム・コンピュータグラフィックス・デザイン等の専門分野における「実践的な専門的知識・技術」、「論理的判断能力」、「情報通信技術 (ICT) を活用したコミュニケーション能力」を高める教育を実践し、未来の産業社会で活躍できる自立した専門職業人を養成する。																						
認定年月日	平成30年 2月 27日																						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																
2	年間	62	49	156	0	0	0																
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内数)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																	
80人		54人	8人	2人	1人	3人																	
学期制度	■前期: 4月1日から9月30日 ■後期: 10月1日から3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 試験、課題提出等の方法により、学修の成果を評価して単位を付与する。																		
長期休み	■夏 季: 7月21日から8月31日 ■冬 季: 12月24日から1月7日 ■春 季: 3月15日から3月31日			卒業・進級条件	卒業要件 62単位以上取得 うち「システム開発演習Ⅰ」は必修科目																		
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 ・クラス担任による出欠確認 ・電話連絡 ・個別面談、保護者との三者面談 ・月間出席の保護者報告			課外活動	■課外活動の種類 新入生一泊キャンプ、校外イベント行事、七夕祭、クラス交流会、カナダ語学研修、OICフェスティバル、就職支援宿泊、クリスマスイベント、学生作品展等 ■サークル活動: 有																		
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(平成30年度卒業生) タイムテック(株)、旭情報サービス(株)、(株)イー・ピー・エル、(株)ケー・エス・ディー、SCSKシステムマネジメント(株)、サンショウシステム(株)、(株)岩瀬サービスセンター、(株)大阪そふとALSOKグループ 総合警備保障(株)、CTCシステムマネジメント(株)			主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成30年度卒業生に関する令和元年5月1日時点の情報)																		
				<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>C言語プログラミング能力認定試験3級</td> <td>③</td> <td>18人</td> <td>5人</td> </tr> <tr> <td>C言語プログラミング能力認定試験2級</td> <td>③</td> <td>27人</td> <td>17人</td> </tr> <tr> <td>ITパスポート試験</td> <td>③</td> <td>3人</td> <td>1人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	C言語プログラミング能力認定試験3級	③	18人	5人	C言語プログラミング能力認定試験2級	③	27人	17人	ITパスポート試験	③	3人	1人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																				
C言語プログラミング能力認定試験3級	③	18人	5人																				
C言語プログラミング能力認定試験2級	③	27人	17人																				
ITパスポート試験	③	3人	1人																				
				※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																			
				■自由記述欄 ※ITパスポート、情報処理技術者試験は国家資格																			
中途退学の現状	■中途退学者 9 名 平成30年4月1日時点において、在学者68名(平成30年4月1日入学者を含む) 平成31年3月31日時点において、在学者59名(平成31年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 経済的に困難、学業不振等			■中退率 13.2 %																			
■中退防止・中退者支援のための取組 ・クラス担任、学生指導担当等による個別面談、保護者との三者面談、学費相談等																							
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 特別奨励奨学金(20万円15名)、学業支援奨学金(10万円35名) ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象																						
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																						
当該学科のホームページURL	http://www.oic.ac.jp/																						

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください。

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

建学の理念および事業計画に基づいて、実践的かつ専門的な職業教育を実施するために、①業界における人材の専門性の動向、②国又は地域の産業振興の方向性、③実務に必要な最新の知識・技術・技能、④その他、教育課程の編成に関連する事項について、企業等と連携し、必要な情報の把握・分析を行い、本校教育課程の授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等に活かすために教育課程編成委員会を設置する。

教育課程編成委員会は校長及び校長が指名する教職員の他、専攻分野に関する専攻分野に関する企業等の役職員から広く選任するものとし、以下の①または②から1名以上、各学科に対し③から1名以上を委員に加えることとする。

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員
- ② 専攻分野に関する学会や学術機関等の有識者
- ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会の意見は教学会議へ報告され、審議の上、教育課程の編成に活用するものとする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

2019年3月31日,2019年4月1現在

名 前	所 属	任 期	種 別
春名 修介	大阪大学大学院 情報科学研究科特任教授	2018/4/1～2018/3/31 2019/4/1～2020/3/31	②
中野 秀男	帝塚山学院大学 情報メディア学科特任教授兼ICTセンター	2018/4/1～2018/3/31	②
清久 智広	旭情報サービス株式会社 大阪支社長	2018/4/1～2018/3/31 2019/4/1～2020/3/31	③
原辺 隆吉	大阪情報コンピュータ専門学校校長		
呉本 能基	大阪情報コンピュータ専門学校学部長		
谷本 成周	大阪情報コンピュータ専門学校教務委員長		
山口 雅樹	大阪情報コンピュータ専門学校学部長補佐・情報メディアセンター長		
久楽 忠昭	大阪情報コンピュータ専門学校IT系分野主任		
清水 素彦	大阪情報コンピュータ専門学校IT系分野主任		
櫻井 健一	大阪情報コンピュータ専門学校IT系分野教員		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ② 学会や学術機関等の有識者
- ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(7月、1～2月)

(開催日時(実績))

第1回 2019年2月6日(水) 15:00～17:20

第2回 2019年7月22日(水) 15:00～17:15

#REF!

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

・職種に必要なタスク(業務)に対応した企業現場で通用する実践的な専門スキルを修得させるためのSE養成カリキュラムを導入することとした。従来のプログラミング言語を中心とした科目から設計を中心としたプログラミング教育へと科目を変更することとした。具体的には「C言語」「Java」などの言語科目を廃止し、コーディングやテストを実施する「プログラミング I、II、III」「プログラム設計」「内部設計」科目を配置することとした。

・また、上記iCDカリキュラム実施のための新たな教材コンテンツ・教材の開発を企業と連携して行うこととした。

・資格取得プロセスの最適化を図るために、IT系分野においては、iCDに基づく新しいカリキュラム下における資格取得プロセスを見直すこととした。また、デザイン系分野においては高い資格取得率が継続して維持できるよう動機づけを強化することとした。

・業界のニーズや要請に対して柔軟に対応し、企業現場でキャリアアップを目指し自発的に学び続けることができる人材を養成する必要がある。在学中に学生が主体的な学びの姿勢や自主的で自律的な活動スタイルが身に付くようにするための支援方法の確立に向けて取り組むこととした。

・2019年度から実施するiCDカリキュラムの成果はすぐには判断できないだろうが、次回委員会(2019年7月)では、3カ月の実施内容や課題等が一定、見えてくることを踏まえ、実施状況報告と課題等について報告し、企業様からの意見を頂くこととした。

・2019年4月から開始しているタスクベースドカリキュラムに基づく「システム全体を見せながら、システムの一部を構成するプログラミング教育」について、実践的な授業展開が本格化する後期に向けて、教員間で以下の内容を共有し実践することとした。システム導入の背景と意義、要件定義の内容、全体システムと階層等。

・高い就職率の維持・継続に向けて従来の就職支援について一定、継続しつつも学生が意欲的、かつ自主的に就職活動に取り組めるような方策を考えていくこととした。学生気質の変化も踏まえると就職活動時のみならず、入学後から学生が能動的に学び、積極的な学校生活を送ることを含めた仕組みや支援方法について考えていくこととした。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

社会で長く活躍できる技術者を養成するために、システム作りやゲーム、CG、デザイン制作等において実績があり、また学生に実践的な職業教育を行える専門技術者を講師として派遣できる企業を選定している。また実際の演習では、実際の開発・制作現場の実務を想定したシステムやコンテンツの設計、構築の実践的なプロセスを疑似体験するため、この過程を熟知しており、実践的な思考力、創造力、技術力、問題解決力やチームで課題に取り組む力の養成に協力できる企業を選定している。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

授業科目の担当教員と企業・業界団体等の講師が学習前に事前の打ち合わせを行い、実習内容、学生の学習成果の達成度評価等について定める。

実習期間中は、担当教員が日常的な指導を行う。企業講師は開始期に「チーム開発の進め方、考え方」の全体講演、また制作物に対する中間評価を通じて、専門的な技術指導を行うなど、担当教員と企業等の講師が連携し授業運営を行う。実習終了時には、制作物の最終発表を通じて評価／総評を企業から受け、担当教員が成績評価・単位認定を行う。

(3)具体的な連携の例

科目名	科目概要	連携企業等
システム開発演習Ⅰ	学習の総決算として実際のシステム開発現場、及び実務を想定したシステム設計から構築までのシステム開発の実践的なプロセスをチームで疑似体験する。その過程で、システム開発スキルを高めるとともに、チームで協調して課題解決を行う力やプレゼンテーション力などの専門スキルを総合的に高める。 また科目の成果物として「情報処理システム」「ゲーム作品」を完成させる。	(有)スピナッチ・パワー

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教員の研修は、別紙、研修規程に基づき教員の能力開発、資質の向上等に組織的に取り組む。

研修は、①企業等から講師を招いて実施する学内研修、②教員を企業等へ派遣する学外研修、③職能団体等が実施する研修の活用によって実施する。

教員の研修は、学部長を責任者とする教務委員会が主管し、「専攻分野における実務に関する知識、技術、技能を修得・向上するための研修」と「授業及び学生に対する指導力等を修得・向上するための研修」をそれぞれ毎年度1回以上実施するものとし、教員は、業務経歴や能力、担当する授業科目や授業以外の担当する業務等に基づき、計画的に研修へ参加しなければならない。また、教員は参加研修の報告書を提出する。場合によっては、教員研修会等を通じて、成果を報告する。

教務委員会は、年次毎に研修計画を作成し、校長の承認を得るものとする。また、研修終了後、研修の種類に応じた方法により、研修の効果を評価する。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

1)研修名:MySQL8.0入門セミナー ～チューニング基礎編、SQLチューニング編～

主催:日本オラクル株式会社 西日本支社

開催日:2019年3月11日

内容:フリーソフトなどでも人気のあるMySQLのチューニングする時に役立つ様々な機能やチューニングの基礎知識について学ぶことができた。得た知識を基に、授業などでオブティマイザの仕組みや、実行計画を確認する際のポイント、実行計画を調整する方法など、SQLチューニングなど実務を意識した情報を学生指導に活用した。

②指導力の修得・向上のための研修等

1)研修名:入学前教育、初年次教育の取り組みについて

連携企業:進研アド

開催日:2019年3月26日

内容:専門学校では、新入生の基礎学力不足、学習意欲の低さを原因とした退学者の増加や国家試験合格率低迷など、様々な課題を抱えている。専門学校に入学する前にどのような取り組みが実施できるのか、また、現在実施している取り組みの改善方法について考える機会となった。また、成績下位層に向けた効果的な指導方法についても学び学生指導に活用した。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

1) 研修名:「サイバーセキュリティ最前線 見えない敵にどう立ち向かうか」

主催: FireEye

開催日: 2019年7月20日

内容: セキュリティ関連の講演を通じ、最新の動向を確認することで、本校のネットワーク・セキュリティ教育分野で活用する。また、情報メディアセンターのセキュリティ運用についても参考としていく。

2) 研修名:「サイバーファースト時代のネットワークエンジニア育成について」

主催: TCJ(Cisco Networking Academy)

開催日: 2019年8月19、20日

内容: 将来のインターネットや情報システムを支えるエンジニア教育の現場で教員が行う授業の改善・改良に向けたトレーニングとなる。今回は年に1回のトレーニングを通じて、ネットワークに関する最新知識と技術を確認する。次年度は、CCNAが新制度に移行する予定となっており最新情報を確認し、本校のネットワーク教育分野に反映させていく。

② 指導力の修得・向上のための研修等

1) 研修名:「現在の若者事情、年代に応じた若者への支援の基礎基本」(仮称)

主催: 認定特定非営利活動法人育て上げネット井村 良英

開催日: 2020年2～3月実施予定

内容: 多様な背景と経験(不登校、中退、引きこもり等)を持つ学生が増加する中、学習面やキャリア形成面で支援するために教職員の幅広い知識と対応が求められている。多くの支援事例をもとに本校に入学してくる多様な学生の特性や支援方法を共有し、学生指導に活かす。講師はNPO活動で10代専任キャリアサポーターとして、中・高・大学生のキャリア形成支援、不登校、ひきこもりからの社会復帰など幅広く若者にに関わり、また、内閣府事業「子ども・若者支援地域協議会体制モデル事業」講師として全国の自治体職員や教職員への講演を行っている。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

本校の教育活動その他の学校運営について、社会のニーズを踏まえた目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について自己評価を実施・公表することにより、組織的・継続的な改善を図る。また、自己評価の結果に対し、卒業生、関係業界、本校と接続する学校、保護者など学校関係者による評価を実施・公表することにより、自己評価結果の客観性・透明性を高め、また説明責任を果たすとともに、学校関係者の理解促進や連携協力による学校運営の改善を図る。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 教育理念・目標
(2) 学校運営	(2) 学校運営
(3) 教育活動	(3) 教育活動
(4) 学修成果	(4) 学修成果
(5) 学生支援	(5) 学生支援
(6) 教育環境	(6) 教育環境
(7) 学生の受入れ募集	(7) 学生の受入れ募集
(8) 財務	(8) 財務
(9) 法令等の遵守	(9) 法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	(10) 社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	(11) 国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

・教育課程編成委員会、あるいは学校関係者評価委員会等で連携企業者や有識者から頂戴した意見を元にIT企業の開発現場や人材育成で活用されている実際のタスク(業務)をベースとした新カリキュラムを実施し始めている。このカリキュラムを充実させるために教員は、学生が仕事や業務内容を理解しながら技術を学ぶことが意識できるよう業種、職種、就業形態等の幅広い内容を伝える必要がある。実務経験のある教員と連携しながら各種行事内容や授業等で具体的に展開していく方策を考えることとした。

・専門知識と技術の習得、あるいは資格取得は従来から本校の重点課題として取り組んでいるが、その土台となる「自ら学び続ける姿勢」が社会人になってからも重要であるとの意見が多くあった。学生が受け身から、自ら新しいことを積極的に学ぼうとする意欲の向上と同時に、それを実現する学習習慣の確立等に向けて対策を検討し実施することとした。

・社会的なニュースとしても度々、注目されるSNSを使ったトラブルについては、従来実施している内容以上に考え方を含めてゼミナールにおいて教育することとした。実施観点としては、「モラル、マナー違反」「社会的弱者を貶めるもの」「個人情報情報の情報漏洩」「友人間での乱暴な単語のやりとり」等とし、具体事例と結果の説明を豊富化し、全学生が安全で安心した学校生活と社会生活を送れるよう徹底する。

・学生に対する支援・サポート体制が充実しているという評価を継続して受けた。併せて2020年度から実施される高等教育の無償化についても対応していくことについて、支援対象となる学生が学びの機会を活かし、社会で活躍できるようにしっかりと支援・サポートしていくよう期待が表明された。学生一人一人の修学状況に対する見守りと適切な支援を全校的に強化し、きめ細かなサポートを実施することとした。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和元年6月1日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
谷口 富男	Pro-X株式会社 代表取締役	2019/6/1～2020/3/31	企業等委員
今西 敏彦	株式会社ウイズ・ソフトウェア 代表取締役	2019/6/1～2020/3/31	企業等委員
長尾 和昭	株式会社COMET DESIGN WORKS 代表取締役	2019/6/1～2020/3/31	企業等委員
布施 利洋	株式会社カガミ 代表取締役	2019/6/1～2020/3/31	企業等委員
広末 貢一郎	株式会社エアポートカーゴサービス企画事業部 関西業務部 課長	2019/6/1～2020/3/31	企業等委員
中村 恵子		2019/6/1～2020/3/31	保護者
野口 幸雄	株式会社ナック 代表取締役	2019/6/1～2020/3/31	卒業生
東 龍太郎	科学技術学園高校 統括分室長	2019/6/1～2020/3/31	接続する学校の関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生、校長等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) 広報誌等の刊行物 ・ その他() 公表年月日: 令和元年10月15日

<http://www.oic.ac.jp/about/disclosure.html>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学生、保護者、業界関係者など本校の関係者の理解を深め、公的な教育機関として、教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を積極的に提供することで、社会に対する説明責任を果たすとともに、社会全体からの信頼を高める。また、本校の基本的な教育組織等に関する情報のほか、教育情報の積極的な公表を通じて、本校の教育の質の確保・向上を図る。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	(1) 学校の概要、目標及び計画
(2) 各学科等の教育	(2) 各学科等の教育
(3) 教職員	(3) 教職員
(4) キャリア教育・実践的職業教育	(4) キャリア教育・実践的職業教育
(5) 様々な教育活動・教育環境	(5) 様々な教育活動・教育環境
(6) 学生の生活支援	(6) 学生の生活支援
(7) 学生納付金・修学支援	(7) 学生納付金・修学支援
(8) 学校の財務	(8) 学校の財務
(9) 学校評価	(9) 学校評価
(10) 国際連携の状況	(10) 国際連携の状況
(11) その他	(11) その他

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

<http://www.oic.ac.jp/about/disclosure.html>

授業科目等の概要

(情報処理専門課程 情報処理科) 令和元年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
	○		ビジネスアプリケーションⅠ	仕事を支えるレポートの作成、表計算、プレゼン資料を効率的かつ効果的に作成するための能力を習得する。また、パソコンを教育・研究の道具として活用するための基礎能力を涵養する。	1前	30	1		○		○			○		
	○		ビジネスアプリケーションⅡ	ビジネスシーンで重要なソースとなるデータベースについてしっかりと理解したうえで自由自在にデータを検索し、クエリを使ってSQLの仕組みを理解できるようになるため、Officeツールの一つであるAccessを使用し、新規テーブルの作成、リレーションシップの設定、フォームやレポートを活用する技術等を学んでいく。	1後	30	1		○		○				○	
	○		Webページ制作技法	Webページ制作の基本知識・技術である、HTML、CSS、JavaScriptについて学ぶ。HTMLを理解することで標準規格に準拠したWebページを作成できるようになり、CSSを組み合わせることでWebページのデザインを制御できるようになることを目標とする。また、JavaScriptを利用して、Webページの動的な装飾やフォームを利用したデータ処理の基本を習得する。	1後	60	4		○		○					○
	○		コンピュータシステム	コンピュータがデータを処理するために用いる2進数や、データの表現方法などの基礎理論を理解する。また、コンピュータを構成する装置や、その周辺機器について理解する。また、基本ソフトウェアであるOSや、システムの構成、ネットワークの種類についても理解する。	1前	60	4	○			○			○		
	○		システム開発基礎	システム開発手法のベースとなっているウォーターフォールモデルの開発プロセスを学習し、開発の流れや、各フェーズでの作業内容、設計に必要な基本的開発技法を修得することを目標とする。DFD、HIPO、決定表、モジュール分割などの基本的な開発技法についても理解を深める。	1後	30	2	○			○					○
	○		データベース技術	データベースの概要として、データのモデル化手法に関するER図、正規化理論、DBMSに関する排他制御、障害回復について理解し、またSQL言語の基本的な文法を説明し、机上でSQL文の結果が導き出せるように学んでいく。	1後	60	4	○			○					○
	○		ネットワーク技術	通信ネットワークにおける基本構成と基礎技術である伝送制御技術と通信サービスについて理解し、ネットワークを理解するのに必須になるネットワークアーキテクチャとしてのTCP/IPの各階層におけるプロトコルの内容を理解できるよう学んでいく。	1前	30	2	○			○					○
	○		マネジメントと戦略	本科目は企業活動における経営活動についての経営手法を理解し、現実の企業経営に対する理解、評価ができるようになることを目指す。今後IT技術者を目指す人材の土台として、情報戦略とマネジメントの基礎知識を理解し習得するため、学んでいく。	1前	60	4	○			○			○		
	○		CASL	基本情報技術者試験対策として、アセンブラ言語CASLを用いたアルゴリズムを含めた理解を目標に、メモリとレジスタ、アドレスを使ったデータのやりとり、加減算処理、論理演算、ビット操作に関する復習と確認、分岐命令・フラグレジスタ、比較、シフト演算、その他の処理を含む演習を行う。	1前	60	4		○		○					○

○	○	アルゴリズム	アルゴリズムの基礎的な考え方、知識および基本となるアルゴリズムの修得を目標とする。アルゴリズムの表現方法として、流れ図、擬似言語の使用法を学習する。あわせて、いくつかの基本アルゴリズムについても学習する。	1前	30	2	○			○								
○	○	データ構造とアルゴリズム	擬似言語を使って、基本となるデータ構造やそれを取り扱うアルゴリズムについて学習する。具体的には、文字列操作、データ構造（リスト、スタック、キュー）、ハッシュ表、木、ヒープ、巡回、グラフ、ファイル処理と併合・照会・更新、コントロールブレイク処理などのアルゴリズムを学んでいく。	1後	30	2	○			○								
○	○	プログラミング I	実際のプログラミングに必要な基礎知識やスキルとして、ウォーターフォールモデルを意識して構造化プログラミングの習得を目指す。Visual Studioの開発環境でC#の文法を理解し、基本的なプログラミング、デバッグについて学ぶ。	1前	60	4				○								
○	○	プログラミング II	システム開発の基本となるウォーターフォールモデルのプログラミング及びテスト工程に必要な技術習得を目指す。実習課題を通じて、プログラミング・デバッグ、プログラム設計書の理解、モジュール論理設計やテスト仕様書作成と実施等、一通りの作業のトレーニングを受け、実践的な実習に取り組むための基本技術を学ぶ。	1後	90	6				○								
○	○	システム開発演習 I	入学時から現在までの学習の総決算として実際のシステム（またはゲーム、以下同じ）開発現場、及び実務を想定したシステム設計から構築までのシステム開発の実践的なプロセスを疑似体験する。その過程で、システム開発スキルを高めるとともに、チームで協調して課題解決を行う力やプレゼンテーション力などの専門スキルを総合的に高めることを目標とする。	2後	180	6				○								
○	○	Windows アプリケーション開発	Windowsアプリケーションソフトを作成するための代表的なプログラミング言語であるVisual C#の開発手法を学ぶ。Windowsソフト開発の基本に慣れるとともに、Accessなどのデータベースと接続し、業務用システムが構築できる力を身に付ける。	2前	90	6				○								
○	○	プログラミング III	システム開発の基本となるウォーターフォールモデルのプログラミング及びテスト工程に必要な技術を今まで習得した知識をもとに、自ら各種仕様書を作成し実施する知識と技術習得を目指す。教員が指示した実習内容を通じて、プログラム設計書を作成しプログラミングを作成する。また、ホワイトボックステスト仕様書を学生自らが作成しテストを実施し作成したプログラムの評価を実施できる知識を習得する。	2前	90	6				○								
○	○	プログラム設計	システム開発の基本となるウォーターフォールモデルのプログラム設計工程に必要な技術習得を目指す。実習課題を通じて内部設計書の理解、モジュール分割、プログラム設計書の作成、単体ブラックボックステスト仕様作成と実施等、システム開発に取り組むための基本技術を学ぶ。	2前	60	4				○								
○	○	内部設計	システム開発の基本となるウォーターフォールモデルの内部設計工程に必要な技術習得を目指す。実習課題を通じて外部設計書の理解、DFD作成、プログラム分割、プログラム仕様書や画面設計書等内部設計書の作成、結合テストを含むテスト全般の仕様作成と実施等の作業を経験し、基本技術を習得する。	2後	60	4				○								
○	○	WEBサイトデザイン	パソコンのブラウザ、スマートフォン、タブレット端末など、Webサイトを閲覧するツールの多様化に対応したレスポンシブデザインの基礎を学び、HTML5とCSS3の基本仕様と、基本となるボックスレイアウトの手法を理解し、マルチデバイスに対応したページ設計及び構築ができることを目指す。	2前	60	4				○								
○	○	SQL I	基本的なSQL SELECT文の作成、INやLIKEなどの演算子を利用したデータの検索条件を定義、各種関数でデータを加工、複数の表の結合や副問い合わせ、データ操作、オブジェクトの作成および管理について学ぶ。データベースの基本的な概念を理解し、説明できるようになり、SQL文を使用したデータベースの操作ができるよう、演習を行う。	2前	30	2				○								

		○	Oracle Cerified Java Programmer Silver	Oracle Cerified Java Programmer Silverに合格する水準の知識・技術を過去問題や模擬試験等の演習を通じて学ぶ。	12前後	30	2		○	○	○						
		○	Oracle Cerified Java Programmer Gold	Oracle Cerified Java Programmer Goldに合格する水準の知識・技術を過去問題や模擬試験等の演習を通じて学ぶ。	12前後	30	2		○	○	○						
		○	Javaプログラミング能力認定試験2級	Javaプログラミング能力認定試験2級に合格する水準の知識・技術を過去問題や模擬試験等の演習を通じて学ぶ。	12前後	30	2		○	○	○						
		○	Linux LPIC LEVEL 1	Linux LPIC LEVEL 1に合格する水準の知識・技術を過去問題や模擬試験等の演習を通じて学ぶ。	12前後	15	1		○	○	○						
		○	Linux LPIC LEVEL 2	Linux LPIC LEVEL 2に合格する水準の知識・技術を過去問題や模擬試験等の演習を通じて学ぶ。	12前後	30	2		○	○	○						
		○	Linux LPIC LEVEL 3	Linux LPIC LEVEL 3に合格する水準の知識・技術を過去問題や模擬試験等の演習を通じて学ぶ。	12前後	30	2		○	○	○						
		○	C言語プログラミング能力認定試験3級	C言語プログラミング能力認定試験3級に合格する水準の知識・技術を過去問題や模擬試験等の演習を通じて学ぶ。	12前後	15	1		○	○	○						
		○	C言語プログラミング能力認定試験2級	C言語プログラミング能力認定試験2級に合格する水準の知識・技術を過去問題や模擬試験等の演習を通じて学ぶ。	12前後	30	2		○	○	○						
		○	C言語プログラミング能力認定試験1級	C言語プログラミング能力認定試験1級に合格する水準の知識・技術を過去問題や模擬試験等の演習を通じて学ぶ。	12前後	30	2		○	○	○						
		○	認定スクラムマスター	認定スクラムマスターに合格する水準の知識・技術を過去問題や模擬試験等の演習を通じて学ぶ。	12前後	30	2		○	○	○						
		○	ドットコムマスターアドバンス	ドットコムマスターアドバンスに合格する水準の知識・技術を過去問題や模擬試験等の演習を通じて学ぶ。	12前後	15	1		○	○	○						
		○	MOS(WORD一般)検定	MOS(WORD一般)検定に合格する水準の知識・技術を過去問題や模擬試験等の演習を通じて学ぶ。	12前後	15	1		○	○	○	△					
		○	MOS(EXCEL一般)検定	MOS(EXCEL一般)検定に合格する水準の知識・技術を過去問題や模擬試験等の演習を通じて学ぶ。	12前後	15	1		○	○	○	△					
		○	MOS(WORD上級)検定	MOS(WORD上級)検定に合格する水準の知識・技術を過去問題や模擬試験等の演習を通じて学ぶ。	12前後	15	1		○	○	○						
		○	MOS(EXCEL上級)検定	MOS(EXCEL上級)検定に合格する水準の知識・技術を過去問題や模擬試験等の演習を通じて学ぶ。	12前後	15	1		○	○	○						
		○	MOS(Access)検定	MOS(Access)検定に合格する水準の知識・技術を過去問題や模擬試験等の演習を通じて学ぶ。	12前後	15	1		○	○	○						
		○	MOS(Power Point)検定	MOS(Power Point)検定に合格する水準の知識・技術を過去問題や模擬試験等の演習を通じて学ぶ。	12前後	15	1		○	○	○						
		○	秘書検定3級	秘書検定3級に合格する水準の知識・技術を過去問題や模擬試験等の演習を通じて学ぶ。	12前後	15	1		○	○	○						
		○	秘書検定2級	秘書検定2級に合格する水準の知識・技術を過去問題や模擬試験等の演習を通じて学ぶ。	12前後	30	2		○	○	○						
		○	秘書検定準1級	秘書検定準1級に合格する水準の知識・技術を過去問題や模擬試験等の演習を通じて学ぶ。	12前後	30	2		○	○	○						

卒業要件：62単位以上取得 「システム開発演習Ⅰ」は必修科目	1 学年の学期区分	2 期
	1 学期の授業期間	15 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。